

令和 2 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

北相木村

No.	事業項目	事業名
1	木を活かした力強い産業づくり	木質化推進事業 (木製コサージュ等制作)
事業費		124,300 円 (うち支援金: 118,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

主林木であるカラマツの林齢が、11 齢級(51 年生)以上が 1,696ha(69%)で更に 13 齢級(61 年生)以上では、517ha(21%)、6 齢級(30 年生)以下は、2.93ha(0.1%)と著しく偏った齢級構成となっており、次代へのカラマツ林の更新が大きな課題。

(2) 本事業の目的

(1) の課題への対応方向について記載)

卒業生に木工製品から木や自然を身近に感じてもらい、北相木の森林・林業に興味を持ってもらうこ

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 北相木小学校 他

(2) 対象者 卒業生 他

(3) 実施方法

- ・木材の鉋屑を利用した木製コサージュを卒業生に身に付けてもらう。
- ・卒業式等のイベントにて、キノハナを飾り、木の香りや木の魅力を感じてもらう。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (令和元年度～令和 4 年度)

木製品の活用方法の拡大

②令和 2 年度実績

木製コサージュ: 11 個

木製オブジェ (祭壇用): 1 式



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

- ・木製品にふれあうことにより、子供たちの木材・林業への関心を高める。また、枯れることはないののでいつでも北相木小学校・保育園で体験した林業体験を思い出してもらいたい。

(2) 継続性

- ・地元産カラマツを利用することにより、木製品としての価値を再認識してもらおう。
- ・木材の新たな利用方法として認知してもらい、利用方法の拡大を図る。

(3) 普及性

- ・卒業生の大半が県外でもあり、県内外に北相木産カラマツや木材の利用方法拡大、PRを実施できる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

- ・コサージュから漂う木の香りや、木によって違う花の色を見て、木に興味を持ってもらえた。また、林業体験や木工体験の記憶を思い出してもらえた。
- ・木製オブジェが目を引き目玉となり、式典に華を添えられる。また、式典への参加者等に木の香りや木の魅力をPR出来た。

(2) 課題

- ・小学生へのカラマツ製品の認知度は高まってきているが、村民への認知度が今一つ感じられず、今後の取り組みの課題である。
- ・木製オブジェを、村内外にPRしてイベントや式典での展示機会を増やして、木の魅力のPRに繋げていきたい。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

- ・毎年、卒業生へのプレゼントにしていくことを検討したい。また、ワークショップなどを通して、木との触れ合える機会を増やしていきたい。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

令和 2 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

北相木村

No.	事業項目	事業名
2	木を活かした力強い産業づくり	木質化推進事業(博物館カラマツテーブル 制作)
事業費		352,000 円 (うち支援金: 230,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

((1) 地域の森林・林業の現状と課題

主林木であるカラマツの林齢が、11 齢級(51 年生)以上が 1,696ha(69%)で更に 13 齢級(61 年生)以上では、517ha(21%)、6 齢級(30 年生)以下は、2.93ha(0.1%)と著しく偏った齢級構成となっており、次代へのカラマツ林の更新が大きな課題。

((2) 本事業の目的

((1) の課題への対応方向について記載)

北相木産カラマツを活用して製作することにより、地元産材を効果的に活用するとともに、地元産材の魅力を県内外にアピールする。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 北相木村 考古学博物館

(2) 対象者 来場者及び村民

(3) 実施方法

北相木産カラマツを使用したテーブルを制作し配置する。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～令和 4 年度)

木製備品の設置

②令和 2 年度実績

博物館カラマツテーブル: 2 台



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

- ・木製品にふれあうことにより、村内外の来場者に木材・林業への関心が高められた。

(2) 継続性

- ・木製品の良さを認識してもらい、将来的には公共施設の木質化を進めていきたい。さらには、一般家庭への木質化の普及に取り組んでいきたい。

(3) 普及性

- ・公共施設の木質化を進めることで、木材に見たり、触れたりする機会が増え、木の魅力発信に繋がっている。また、施設内が木質化されることにより雰囲気も良くなる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

- ・設置後、すぐに来場者が興味を示し木製品への関心の高さがうかがえた。
- ・施設内の木質化が進んだことにより雰囲気が良くなった(今までは合板テーブル使用)。

(2) 課題

- ・村民のカラマツに対する悪いイメージの克服が、今後の取り組みの課題である。
- ・設置したカラマツ家具等を見てもらい悪いイメージを改善していきたい。

(3) 今後の取組方向

- 事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

公共施設への普及を図っていきたい。

- 事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

- 事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

令和 2 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

北相木村

No.	事業項目	事業名
3	木を活かした力強い産業づくり	木質化推進事業(木製パーテーション制作)
事業費		176,000 円 (うち支援金: 170,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

主林木であるカラマツの林齢が、11 齢級(51 年生)以上が 1,696ha(69%)で更に 13 齢級(61 年生)以上では、517ha(21%)、6 齢級(30 年生)以下は、2.93ha(0.1%)と著しく偏った齢級構成となっており、次代へのカラマツ林の更新が大きな課題。

(2) 本事業の目的

((1) の課題への対応方向について記載)

公共施設(役場等)に配置することにより木の質感や良さを体感すると同時に、森林の多面的な

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 役場 他

(2) 対象者 施設利用者 他

(3) 実施方法

・北相木産カラマツを使用した木製パーテーションを制作し配置する。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～令和 4 年度)

木製備品の設置

②令和 2 年度実績

木製パーテーション 2 台



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

- ・木製品にふれあうことにより、村民への木材・林業への関心を高める。

(2) 継続性

- ・木製品の良さを認識していくことにより、将来的に施設の木質化を図りたい。

(3) 普及性

- ・役場には村民や県内外者が訪れるため、北相木産カラマツのPRには適しており、今後の木材利用の推進につながる可能性がある。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

- ・設置後、すぐに児童たちが興味を示し木製品への関心の高さがうかがえた。
- ・診療所に設置したことにより、村内の高齢者にPR出来た。

(2) 課題

- ・村民のカラマツに対する悪いイメージの克服が、今後の取り組みの課題である。
- ・設置したカラマツ家具等を見てもらい悪いイメージを改善していきたい。

(3) 今後の取組方向

- 事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

公共施設への普及を図っていきたい。

- 事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

- 事業を継続しない

(継続しない理由を記載)